

Hem21 NEWS

公益財団法人
ひょうご震災記念21世紀研究機構
ニュース

CONTENTS

- ①～② 令和4年度 研究体制とミッション
- ②～④ 情報ひろば
- ⑤ HAT神戸掲示板
- ⑥～⑧ 人と防災未来センター
MIRAI

「Hem21」は、ひょうご震災記念21世紀研究機構の英語表記である
Hyogo Earthquake Memorial 21st Century Research Instituteの略称です。

令和4年(2022) 7月 Vol.94

令和4年度 研究体制とミッション

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構研究戦略センターの令和4(2022)年度研究体制を紹介します。

阪神・淡路大震災以降、日本列島は地震活性期に入り、全国で地震が頻発しています。近年は風水害も多発・激化しており、さらには新型コロナウイルス感染症によるパンデミックの発生という事態にも見舞われました。こうした経験や教訓を生かし、南海トラフ地震や首都直下地震など次なる巨大災害への備えがさまざまな分野で求められています。

また、人口減少と少子高齢化、経済のグローバル化等が急速に進展する中、新型コロナウイルス感染症パンデミックによって社会生活は大きな影響を受け、地域社会が直面する諸課題への対応が急がれているところです。

こうしたことを背景に、当センターでは、南海トラフ地震などの巨大災害による被害の軽減や早期の復旧・復興にいかにつなげていくべきかという視点、そしてコロナ後の地域社会のあるべき姿を明らかにするという視点、以上2つの視点から、本年度より以下の研究調査に取り組みます。

南海トラフ地震発生時における行政の在り方研究

研究員 ● 平石 知久

今後30年以内に70～80%の確率で発生するといわれている南海トラフ地震に備え、地震発災時に対応する行政の組織体制に関する研究として、「南海トラフ地震発生時における行政の在り方」研究会を発足しました。南海トラフ地震は沿岸部自治体を中心に広範な被害が予想されており、復旧・復興の過程で行政が対応すべき業務の増大が予想されています。行政リソースが限られる中で、災害に対応できる持続可能な組織体制はどのようなものか、またいかにその体制を構築するかということが、減災を考える上で重要となります。

当センターでは昨年度までの自主研究「南海トラフ地震に備える政策研究」において、国、都道府県、市町村の各次元における災害対応や防災政策について研究してきました。このたび発足した研究会では、国と市町村との中間に位置する都道府県に着目し、被害が予想される自治体へのヒアリングや現地調査を通じて、災害対応における県の役割について検討していきます。



南海トラフ地震及び首都直下地震を対象とする被害軽減に関する研究

主任研究員 ● 吐合 大祐 主任研究員 ● 朴 延

南海トラフ地震、首都直下地震を想定し、その影響と対策について、まちづくり、停電、初動対応等の視点から検討し、被害軽減に向けた研究を行います。研究会は、大きく南海トラフ地震部会と首都直下地震部会の2部会に分かれますが、相互に連携しながら進めます。まず、南海トラフ地震部会の停電分科会では、人的被害や社会・経済被害の相転移をもたらす要因を停電の観点から明らかにします。具体的には、被害が劇的に拡大する停電期間、停電場所、停電の発生形態などを検討するとともに、相転移を発生させない方策や相転移が発生した場合



の被害軽減策、災害の相転移が起きにくくする方策等を検討していきます。

また、首都直下地震部会の初動対応分科会では、その初動対応の在り方について検討します。適切な初動体制を確立することは、応急以降の対応を確実にするとともに災害関連死など応急期以降の二次災害を防止する上でも重要とされています。今回は「初動対応」に焦点を当て、自衛隊をはじめとする機関間連携の在り方や医療福祉分野との連携方法について学術的に検討していきます。

新型コロナウイルスが今後の社会の在り方に与える影響について

主任研究員 ● 金 恩貞



新型コロナウイルス感染拡大により、社会のあらゆる分野においてわれわれは長期間未曾有の経験をしています。在宅勤務が定着し、仕事や教育現場においてリモートやICTを活用したシステムの構築が急ピッチで進められるなど、従来の社会システムは大きく揺れています。新型コロナウイルスが収束しても既存の社会への後戻りはできません。そのため今、社会では「ポストコロナ」「アフターコロナ」「ウィズコロナ」など新型コロナウイルスと関連する社会科学分野の研究の必要性が唱えられ、少しずつ始動していますが、まだ手探りの状況です。

当センターでは、地震や自然災害に限定されていた「災害」の概念を、感染症パンデミックをも含めた広い範囲で捉え直し、コロナ禍が社会に与えた影響を分析・考察した上で、新しい社会システムに関する提言を行うことを目指しています。次なる感染症災害への「備え」に着目し、日本政府や自治体におけるコロナ政策の功罪、医療行政、コロナ対策に関する国際比較などを研究対象として想定しています。また、ウィズコロナ時代における兵庫県の共生社会の在り方や地域活性化に焦点を当てた研究も想定として考えられます。

情報ひろば

研究戦略センター

「ひょうご講座2022」開催のご案内

21世紀文明を切り拓く高度な研究成果や専門的知識を得たいという県民の学習ニーズに応えるため、「ひょうご震災記念21世紀研究機構」のネットワークを活用し、大学教養レベルの高度な学習機会を提供する「ひょうご講座」を開催します。この機会にぜひ受講してみませんか。

■一般コース

迫り来る巨大災害への備えや変容する地域社会への対応、私たちを取り巻く国際情勢への理解を進めるため3分野で実施します。

○開講分野

分 野 名	回数
防災・復興：様々な災害を知り、危機管理を学ぶ	10回
地域創生：ポストコロナ 変容する地域社会とあなたの暮らしを考える	10回
国際理解：激動する国際情勢と日本の行方がどうなるかを考える	10回

- 開講時期＝9月～12月
- 開講時間＝平日18時30分～20時
- 受講料＝15,000円(1分野)
- 定 員＝各分野 40人予定(先着順。お申し込みはお早めに！)
- 開講場所＝兵庫県民会館(神戸市中央区下山手通4-16-3)

※各分野の開講日等詳細については、「ひょうご講座」ホームページでご確認ください(<https://www.hyogo-al.jp/kouza/>)

※講師は、それぞれの分野で活躍されている大学教授を中心に、マスメディアによく登場される方、地域の実践アドバイザーの講義もあります。ぜひホームページをご覧ください

《内容の紹介》

『防災・復興：様々な災害を知り、危機管理を学ぶ』

近年、地震や風水害をはじめ、気候変動の影響による異常気象に伴う自然災害など、防災対策の必要な事象が頻発し、

その内容も複合化、複雑化しています。

こうした厳しい局面に備えて、危機管理意識を高め、災害の影響を少しでも減じる取り組みを進めるため、さまざまな自然災害を知るとともに、被害軽減やその具体的取り組みについて、ボランティア等の実体験も交えながら幅広く考えます。

『地域創生：ポストコロナ 変容する地域社会とあなたの暮らしを考える』

新型コロナウイルス感染症危機が世界を襲い、医療体制の逼迫をはじめとして、格差の拡大、デジタル環境の立ち遅れ等、仕事や家庭の在り方が変わるなど、これまでの社会の仕組みを見つめ直す必要性が高まっています。

コロナ後の複雑化した時代をどのように過ごしていくべきか、経済・雇用、テクノロジー、価値観の変化など、変容する地域社会とあなたの暮らしを幅広く考えます。

『国際理解：激動する国際情勢と日本の行方がどうなるかを考える』

米中対立が一層激しさを増す中、ロシアのウクライナ侵攻により第2次世界大戦後の国際的枠組みが大きく揺らいでいます。

また、ロシアに対する経済制裁、米中の経済安全保障面や情報分野における覇権争い、貨幣のデジタル化と基軸通貨を巡る攻防等、世界的な経済情勢も目まぐるしく変化する中、日本の行方がどうなるかを幅広く考えます。

■リカレントコース

AIやICTが急速に進化し社会が大きく変化する中、現役社会人の専門的な学び直しの機会を設け、キャリアアップや起業・転職に向けたセカンドキャリア構築の一助として、新たな時代に対応できるよう経営戦略、データ処理等の入門講座を開講しています。

○開講分野

コース名	回数
経営戦略：コロナ後の新しいビジネスのあり方を学ぶ	7回
データサイエンス：ビッグデータ、AIとその周辺を読みとく	10回
AI活用実習：AI活用のための基礎技術とその応用を学ぶ	5回

- 開講時期＝9月～12月
- 開講時間＝平日18時30分～20時
- 受講料＝5回講座は7,500円、7回講座は10,500円、10回講座は15,000円
- 定員＝各20人予定(先着順。お申し込みはお早めに！)
- 開講場所＝兵庫県民会館(神戸市中央区下山手通4-16-3)

※各分野の開講日等詳細については、「ひょうご講座」ホームページでご確認ください(<https://www.hyogo-al.jp/kouza/>)

《内容の紹介》

『経営戦略：コロナ後の新しいビジネスのあり方を学ぶ』

コロナパンデミックを機に、企業を取り巻く経営環境の変化が加速し、ビジネスに求められる能力も変容し高度化しています。こうした状況に的確に対応できるよう、経営戦略、マーケティング、財務会計、人的管理(人の活かし方)について学ぶことで、マネジメントスキルを身に付け、キャリアアップを目指しませんか。

大学教員や実務経験のある講師が事例を交え、一部ワークショップも取り入れて分かりやすく説明します。

『データサイエンス：ビッグデータ、AIとその周辺を読みとく』

情報科学技術の目覚ましい進歩は、社会のあらゆる領域に多大な影響を与えています。とりわけ、ビッグデータ、人工知能(AI)などの活用が注目されています。

ポストコロナ社会では、こうした動きがさらに加速することが想定される中、社会とデータサイエンスとの関わりやこれらの技術はどのようなものなのか、どのように展開されていくのか、具体的な事例も交え関連諸分野を含めて学びます。

『AI活用実習：AI活用のための基礎技術とその応用を学ぶ』

ビッグデータの普及を背景にAIは急速に進化し、次世代産業などを担う原動力として注目を集めています。

こうした中、AI活用で多用されるプログラミング言語Pythonによる機械学習プログラミングに取り組みます。PCを使った実習を通して、実際に手を動かして機械学習プログラムを体験することで、その基礎技術に対する理解を深め、今後の応用につながる実践的な知識や技能を身に付けます。

※実習はWindowsノートパソコンで行いますので各自でご用意願います

応募方法

- 募集締め切り＝9月6日(火)必着でお願いします(一般コース、リカレントコースともに)
※「AI活用実習」については、10月31日(月)必着です

※インターネット、FAX、郵送で受け付けます。先着順に受け付け、定員になり次第締め切ります

※台風等で休講になる場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の状況によっては、事業内容を変更したり、取り止めたりする可能性があります。あらかじめご了承ください

【申し込み・問い合わせ】

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構 交流推進課 ひょうご講座担当
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2 人と防災未来センター東館6階
TEL 078-262-5713 FAX 078-262-5122
<https://www.hyogo-al.jp/kouza/>

兵庫県こころのケアセンター

令和4年度第1期 こころのケア研修の受講者募集

こころのケアに携わる保健・医療・福祉・教育等の分野で活動されている方を対象に、各種課題への対処法等について学ぶ研修を実施しています。

9月から11月にかけて実施する研修の受講者を募集しています。

● 研修概要

区分	コース名	期 間	定員	対 象	受講料	申込締め切り日
専門 研修	DV被害者のこころのケア 【Web開催】	9月16日(金)	35人	母子自立支援員、女性相談員(婦人相談員)、婦人保護施設職員、母子生活支援施設職員、家庭問題相談員、保健師、福祉事務所職員、こども家庭センター(児童相談所)職員等DV被害者相談支援関係職員	2,500円	8月5日(金)
	消防職員のための惨事 ストレスの理解と予防	9月28日(水) 29日(木) (2日間)	35人	消防職員	3,600円	8月17日(水)
	犯罪被害とこころのケア	10月13日(木) 14日(金) (2日間)	25人	保健・医療・福祉・教育・司法・警察・消防関係等職員	4,100円	9月1日(木)
	消防職員のための惨事 ストレスの理解と予防 (ステップアップ)	11月16日(水) 17日(木) (2日間)	25人	消防職員【消防職員のための惨事 ストレスの理解と予防研修を受講済みの者】	4,100円	10月5日(水)
基礎 研修	関わりの中のトラウマイン フォームド・ケア 【Web開催】	10月27日(木)	35人	教育・福祉・保健・医療関係等の対人支援業務従事者	2,500円	9月15日(木)

- 場 所 等 = 兵庫県こころのケアセンター または Web (Zoomで実施)
 - 申し込み方法 = 受講申込書(※)に必要事項を記入の上、郵送、Eメールで下記申し込み先へお送りください。申込者多数の場合は、各申込締め切り日を期限として、初めての受講の方を優先の上、抽選で受講者を決定します。
- ※当センターホームページからダウンロードできます

新型コロナウイルス感染症の状況によっては、当センターでの開催を中止する場合があります。その際はホームページでご案内します。

[申し込み・問い合わせ]

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構 兵庫県こころのケアセンター 研修情報課
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2(阪神「春日野道」駅から南へ徒歩約8分)
TEL 078-200-3010 FAX 078-200-3017
Eメール kensyu@j-hits.org
<https://www.j-hits.org/>

思いに色を、カタチを与える

写真集・詩集・自費出版の
お問い合わせは

神戸新聞総合印刷
神戸新聞総合出版センター
<https://www.kobenp-printing.co.jp/>

HAT神戸 掲示板

兵庫県立美術館

特別展

兵庫県立美術館開館20周年 関西の80年代

兵庫県立美術館の開館20周年を記念し「関西の80年代」を開催します。

なぜ、いま80年代なのでしょう？

当館の前身である兵庫県立近代美術館では、かつて「アート・ノウ」というシリーズ展を開催していました。その年、目覚ましい活躍をみせた作家を紹介し、関西アート・シーンのいまを伝えようとする名物展覧会でした。特に80年代にはまだ20代の作家が続々と参加し、競うように大作を発表する場となります。折しも関西では活きのいい若手が「関西ニューウェーブ」として注目を集めており、この地域ならではの前例にとらわれない個性的な表現ゆえに、現代美術は「西高東低」とも言われました。

時代はパブル景気とポストモダン、何とも華やかで恵まれた状況にも思われますが、いまや国内外で活躍する作家たちも当時はまだ駆け出しです。70年代の禁欲的な傾向とは一転、心躍る色やイメージにあふれた作品群は、ニッポンの片隅で美術作家として何を作りどう生きていくのか、大いに悩みつつそれぞれのリアリティを掘り下げた成果であり、結果的に現代にまで引き継がれる数々の表現語彙を生み出しました。

現代アートの原点とも言える80年代、関西発の類を見ない作品群は、困難ないまをよりよく生きるヒントを与えてくれるに違いありません。

■会 期=8月21日(日)まで

■観覧料=一般1,500(1,300)円、大学生1,100(900)円、高校生以下無料、70歳以上750(650)円、障がいのある方(一般)350(300)円、障がいのある方(大学生)250(200)円

※()内は団体料金

※一般以外の料金には要証明

◎休 館 日=月曜日

◎開館時間=10時~18時 ※入場は閉館の30分前まで

※展覧会についての詳細は兵庫県立美術館ホームページ(<https://www.artm.pref.hyogo.jp/>)にてご確認ください

◎問い合わせ

TEL 078-262-1011



①

②

①田嶋悦子《Hip Island》1987年 2017年西宮市大谷記念美術館での展示風景 岐阜県現代陶芸美術館蔵 撮影:高嶋清俊

②石原友明《約束II》1984年 ギャラリー白での展示風景 現・高松市美術館および作家蔵 撮影:石原友明

JICA関西

◆食えることから始める国際協力!

JICA関西食堂の月替わりエスニック料理

JICA関西1階の食堂(カフェテリア方式)は、どなたでもご利用できます。完全禁煙で、子供椅子もご用意していますので、お子様連れも歓迎です。月替わりエスニック料理もご好評いただいております!7月はルワンダ料理をご提供します。今年ルワンダ・日本友好関係樹立60周年記念です。8月はチュニジア料理をご提供します。8月27日、28日に第8回アフリカ開発会議(TICAD8)がチュニジアで開催予定です。



写真はルワンダ料理

月替わりエスニック料理の詳細と写真はこちら→

JICA関西食堂

<https://www.jica.go.jp/kansai/office/restaurant/index.html>



■営業時間=(昼)11時半から14時まで(夜)17時半から21時まで

※各終了30分前ラストオーダー

コロナの状況を踏まえて営業時間が変更になる可能性があります。

■定 休 日=年中無休(年末年始を除く。)

(注)詳しい休業日についてはJICA関西ホームページをご確認いただくか、下記までお問い合わせください。

◎問い合わせ

JICA関西(独立行政法人国際協力機構関西センター)総務課

TEL 078-261-0341 FAX 078-261-0342

Eメール jicaksic-event@jica.go.jp

その他、詳細はJICA関西ホームページをチェック!

→ <https://www.jica.go.jp/kansai/>

日本赤十字社 兵庫県支部

日本赤十字社は災害が発生すると県内外を問わず、被災状況により日赤救護班を編成・派遣し、医療救護活動に当たります。この5月には兵庫県内の各赤十字施設にて救護班等、災害時に活動する救護員の辞令交付式を執り行い、総勢302人の救護員を登録しました。



救護員辞令交付式の様子

わたしたちは国内災害救護を事業の柱として、国際救援、ボランティアの育成や、とっさの手当てを学べる講習の普及など、「苦しんでいる人を救う」ための活動を行っています。その財源として、皆さま

からお寄せいただいたご寄付を活用させていただいています。皆さまのご支援ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

いのちと健康を守る赤十字活動は、皆さまからお寄せいただく活動資金で成り立っています。

●郵便局・ゆうちょ銀行からご協力いただけます

口座記号番号: 01110-0-1136

口座加入者名: 日本赤十字社兵庫県支部

※窓口で取り扱いの場合、振込手数料は無料です

◎問い合わせ

TEL 078-241-8921(振興課)



日本赤十字社 兵庫県支部
Japanese Red Cross Society

令和4年度1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」

平成7(1995)年1月17日に発生した阪神・淡路大震災の経験と教訓を未来に向けて継承していくため、学校や地域で防災教育や防災活動に取り組んでいる子どもたちや学生を顕彰する事業です。毎年1月に受賞校の表彰式・発表会を兵庫県公館で開催しています。

令和4(2022)年度の1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」は、18回目の開催となりますが、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策に苦慮されている全国の学校・団体の状況を考慮した「特別企画」として実施します。

子どもたちや学生が取り組んできた防災教育や防災活動は、新型コロナウイルス感染症対策にも共通するものがあるのではないのでしょうか。この困難な状況を乗り越えて、防災教育や防災活動が新たな道を切り開いて進むように、との願いを込めて、1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」を実施します。

[対象部門]①小学生 ②中学生 ③高校生 ④大学生 ⑤特別支援学校・団体

[対象活動]①自然災害から命と暮らしを守るための防災教育や防災活動の取り組み(被災地支援活動も含む。)

②健康と生活を守るための新型コロナウイルス感染症に関する取り組み

応募は学校、クラス、サークル活動、ボランティア活動、地域などの単位で。※他薦歓迎

[対象期間]令和3(2021)年10月1日～令和5(2023)年3月31日(活動予定も含む。)

[応募締切]令和4(2022)年9月30日(金)

[応募方法]右記のQRコードから、Webの申込みフォームにお進みいただきご応募ください。自薦他薦を問いません。

(なお、後日、事務局からご連絡する場合があります。)

[問い合わせ先]〒662-0041

西宮市末広町4-7 夙川レッチオレジデンツァ402

ぼうさい甲子園事務局(特非)さくらネット

TEL 0798-23-3215

Eメール bousai_koushien@yahoo.co.jp



申込みフォーム



ぼうさい甲子園
特設サイト

企画展「令和3年度ぼうさい甲子園受賞校活動紹介展」 を開催

人と防災未来センターでは、5月31日(火)から7月10日(日)まで、西館1階ロビーで企画展「令和3年度ぼうさい甲子園受賞校活動紹介展」を開催しました。

例年1月に受賞校・団体への表彰式・発表会を開催していますが、昨年度はコロナ禍により中止となったため、受賞校の生徒が作成した活動内容を紹介する作品を当センターで展示することとなりました。防災訓練や避難所運営方法の新たな発案や、防災・減災を学ぶための音楽やダンスの創作などさまざまな取り組みを紹介しました。



人と防災未来センター開設20周年記念事業 DRI 防災連続セミナー第1回をオンライン開催

人と防災未来センターは、今年で開設20周年となりました。その記念事業として、これまで20年間のセンターの研究等の活動成果を踏まえ、今後も危惧される大規模災害に改めて警鐘を鳴らすとともに、今後のセンターの果たすべき役割や取り組みの方向を探るため、「迫り来る巨大災害で日本を終わらせないために！人と防災未来センターの未来を探る」を全体テーマに、防災専門家による全3回の連続セミナーを開催し、その成果を広く発信します。その第1回を5月6日(金)、オンラインで実施しました。

第1回は「首都直下地震とわが国の防災・危機管理体制のあり方」をテーマに、3人の講師にご講義いただきました。

林春男・防災科学技術研究所理事長からは「21世紀前半の日本の国難となりうる首都直下地震」の演題で、国難災害を乗り越えるための仕組みが不十分であるという課題についてご指摘いただきました。武田文男・福島学院大

学副学長(人と防災未来センター上級研究員)は「首都直下地震等国難対応と危機管理体制の課題」と題して、首都圏外の広域防災バックアップ拠点など、危機管理体制の抜本的強化の必要性について強調されました。田村圭子・新潟大学危機管理本部危機管理室教授(人と防災未来センター上級研究員)からは、「首都圏のレジリエンス総合力向上における現況と残された課題」をテーマに、レジリエンス総合力向上のための取り組み事例のご紹介のほか、研究成果を活用する仕組みの構築など、残された課題について問題提起していただきました。

パネルディスカッションでは、河田恵昭センター長をファシリテーターに、ご講演いただいた3人の講師をパネリストとして迎えました。共通の問題意識を持つことや、災害が発生しても現状を維持できる仕組み作りが重要であると総括しました。第2回以降、さらに議論を深めていきますのでご期待ください。



DRI 防災連続セミナー(全3回)のご案内

第1回 見逃し配信中(無料)

第2回 8月30日(火)13:30~16:00 「あの人は、どうしたら逃げたくなるのか？」

会場:人と防災未来センター東館1階 こころのシアター(予定)

会場(事前申し込み)で、またはオンライン(申し込み不要)で参加いただけます。

※詳細は、人と防災未来センターのホームページまたはQRコードからアクセスください

第3回 10月23日(日)10:30~12:00 「南海トラフ地震の本音の話をしましょう!(仮題)」

※詳細は、人と防災未来センターのホームページにて順次お知らせします



第1回
見逃し配信



第2回
詳細・来場申し込み

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

観覧案内・予約 / TEL 078-262-5050 <https://www.dri.ne.jp/>

開館時間

9時30分~17時30分(入館は16時30分まで)
※7月~9月は9時30分~18時(入館は17時まで)
※金曜、土曜は9時30分~19時(入館は18時まで)

入館料金

大人: 600円(450円) 大学生: 450円(350円)
東館のみ観覧の場合
大人: 300円(200円) 大学生: 200円(150円)
高校生、中学生・小学生: 無料
※()内は20名以上の団体料金
※障がい者、70歳以上の高齢者割引有
※毎月17日は、入館無料
(17日が休館日の場合は、翌18日となります)

休館日

毎週月曜(月曜が祝日の場合は翌平日)、12月31日と1月1日
※ゴールデンウィーク期間中(4月29日から5月5日まで)は無休
※資料室の開室日についてはホームページでご確認ください

交通

鉄道

- ・阪神電鉄「岩屋」駅、「春日野道」駅から徒歩約10分
- ・JR「灘」駅南口から徒歩12分
- ・阪急電鉄「王子公園」駅西口から徒歩約20分

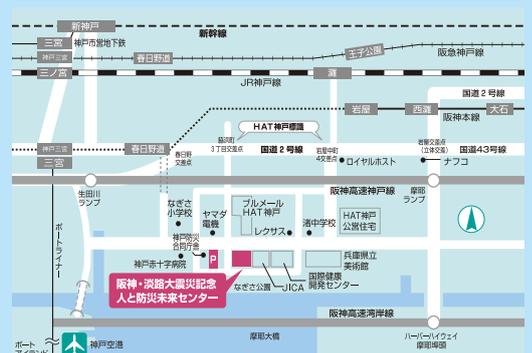
バス

- ・三宮駅から約15分

車

- ・阪神高速道路神戸線「生田川」ランプから約8分
- ・阪神高速道路神戸線「摩耶」ランプから約4分
- ・阪急・阪神・JR「三宮」駅から約10分

●有料駐車場あり ●バス待機所(予約制/無料)あり

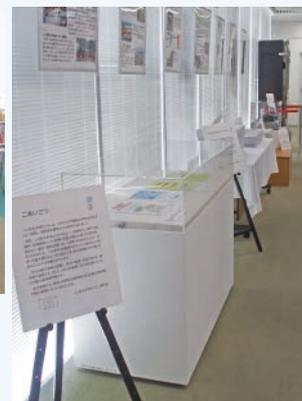


資料室企画展「資料室開室20年の歩み ～資料室ってどんなところ?～」を開催中

人と防災未来センター資料室では毎年、収蔵している震災資料を活用した企画展を開催しています。今回は、「資料室開室20年の歩み～資料室ってどんなところ?～」と題して、5月31日(火)から11月27日(日)まで西館5階資料室(無料ゾーン)で開催しています。

当センターは、令和4(2022)年4月27日で開館20周年を迎え、同じく資料室も開室20周年を迎えました。そこで、資料室がどのようなところなのか、震災資料専門員はどのような仕事をしているのか、改めて知りたいと考えました。震災発生後、震災資料を収集・保存する取り組みをはじめ、平成14(2002)年の開室を経て20周年となった資料室の歩みを紹介しながら、資料室が人と防災未来センターでどのような役割を果たしているのかを展示を通して紹介しています。併せて、モノ資料の展示から、普段は

見ることができない、資料をどのように保存しているのかについても紹介しています。



■お問い合わせ

人と防災未来センター 西館5階資料室(開室時間9:30~17:30)
TEL 078-262-5058 FAX 078-262-5062

資料室はどなたでも無料でご利用いただけますが、現在、新型コロナウイルス感染症のため、一部サービスの利用を制限しております。詳細はホームページをご確認ください。(https://www.dri.ne.jp/information/6382/)

新任震災資料専門員紹介

はじめまして。新しく震災資料専門員として着任いたしました、劉 永恩(ユウ ヨンウン)と申します。韓国から参りました。

私は震災を経験していませんが、神戸大学大学院工学研究科で防災に関する研究をしていました。その際、神戸をはじめ東北地方等において現地踏査を行い、住民の声を聞きました。神戸や東北の復興を見て、今後大震災が再び発生したら私は学者として何ができるのか悩みました。私の恩師は「防災とはヒューマニティーであり、リアリティー」とおっしゃいました。これを心に刻み、その答えを探す時間になると期待しております。

震災資料専門員の一員として、資料室に保管されている資料に託されたさまざまな思いにも心を向けることができるように、日々精進してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



Hem21 NEWS
vol.94

令和4年7月発行

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2(人と防災未来センター)
<https://www.hemri21.jp/>

当機構は、以下の組織で構成しています。

●管理部

TEL 078-262-5580
FAX 078-262-5587

●研究戦略センター

▶研究調査部
TEL 078-262-5570
FAX 078-262-5593

●人と防災未来センター

TEL 078-262-5050
FAX 078-262-5055

▶学術交流部

TEL 078-262-5713
FAX 078-262-5122

●こころのケアセンター

〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2
TEL 078-200-3010
FAX 078-200-3017

ニュースレターに関するご意見・感想を機構までお寄せください